



茨城県・筑波山(2021年9月、筆者撮影)

# 美の旅

嶋田拓哉

山に囲まれて育った私にとって、山はいつもそこにあるものの象徴であり、自然の美しさや怖さ、生命の尊さを教えてくれる存在だった。

今、私の一番近くにある山がこの筑波山である。

万葉集に詠まれるほど有名な筑波山と、名前のない故郷の山々を比較するのはおかしな話であるが、私にとって山であることに変わりはない。

大学に通う電車の窓から見える筑波山を眺めながら故郷に思いを馳せる時間が私の癒しとなっている。

(准教授・文芸メディア)

# 文芸入門E

中本恭平

はじめに、三年生と四年生に説明します。2020年度の入学から、「文芸入門A」D」という必修科目ができました。本稿はその番外編なので「文芸入門E」です。

## 文芸学部とはどんな学部か

今回は、文芸学部をつくった先生方を講師としてお招きし、文芸学部とはどんな学部かということについてお話を伺います。

「この大学にもあった文学部ではなくて、日本の大学で初めての『文芸学部』を創ろうとする考え方は斬新なものでした。…文芸学部の教育の目的と使命は、文学部に渡って、高度の教養を与えるべく、総合的に立って観賞・批評・創作力を養うと共に、文学・芸術各専門職業に必要な技術の理論・演習を修得せしめ、特に出版・放送事業に適する有能な人材を育成することにある。」(遠藤慎吾氏、「文芸学部報」五号、1970年)

版・放送事業に適する有能な人材を育成することにある。」(遠藤慎吾氏、「文芸学部報」五号、1970年)

「東横線が東京十横浜であるように、文芸学部は文学十芸術の学部だと思っていた人が多いのではないかと思えます。でも違うんですね。実は芸術が中心に据えられている学部なのです。」

## 文芸学部のジレンマ

「文芸学部の『文芸学』は、今までの日本で文学とか芸術学とか云われていた概念とは違ったものを意味しようとしているのです。…各々の学生の特質や希望により、日本文学、英文学、仏文学、劇芸術、造形芸術などに中心をおきながら、広い芸術的教養を身につけた女性を育てようとしています。…そういう中心を求めずに、広い教養主義に徹しようとする学生のために、文芸教養コースが設けられている。」(同氏、同号)

「『広い芸術的教養を身につける』ことが、文芸学部の目的です。しかし、創世期からジレンマに悩まされてきたようです。『課題(ママ)の連関性などは考えずに、単位の取りやすい課目ばかり選ぶという傾向が出てきました。…学生がやたらに教員資格を取りたがるのですが、…国語とか英語とかの基礎学力が欠けていて、…こんな状況で教員免許状を出すのは困るとい声が起こって来(た)。…六つのコースに分けるやり方は、学生の学力をあげる効果はありませんが、本学部創設時からの理想である教養大学としての性格と矛盾する。』(同氏、同号)

「文芸学部は『広い芸術的教養を身につける』学部であるはずなのに、広く浅くでは困る。さりとて特定の学問領域に重点を置く」と、深く狭くでこまれた困る。文芸学部の矛盾は、領域・専修と名を変えた今もまだ続いています。『コース』の決定は、一年次の成績と決定試験の結果とを勘案して行われます。」(同氏、同号)

## 教養を奪いがたく身につける

「卒業後、必要やむをえなければ専門による勤労者になる者もあるうけれども、結局は、家庭人、社会人として、従来の女性よりも高度でそして広い教養を奪いがたく身につけた人となるための学部(である)。…決していわゆる花嫁学校ではない。同時にまた、表面だけは専門化した既存の女子大学の垂流ではない。」(新関良三氏、十八号、1973年)

「『奪いがたく身につけた』という力強い表現に、学部創設者の意気込みを感じます。『演技、演出、舞台、劇場などにひろく跨った研究と講義。私はそうした演劇学の講座がほしかった。』(大学院演劇学専攻もまた日本最初のものだった)同氏、同号)

「演劇は、観客なしには存在しない。生身身を舞台にさらす俳優にとつては、観客の直接の反応が、なにより支えとなる。…ちかごろのお義理と情性の拍手・アンコールからは、よい芝居は創造されない。」(藤木宏幸氏、三十三号、1977年)

## 大学とは何か

「大学は、…学問の場だということをはっきり言っておきたいと思えます。それがどんなに非現実的に響こうとも、学問抜きにしては大学は存在しません。学生は一義的に学ぶ者であるし、教師は何よりもまず研究者であるべきだと考えます。すべてはそこから出発する。」(友部直氏、三十四号、1978年)

「当時すでに『非現実的に響いてきた』というお言葉に、身が引き締まる思いです。…」

「『教養』とは何か 文芸学部の重要キーワードは「教養」です。教養とは何か。残念ながら、今回の番外編ではその答えは見つかりませんでした。私自身が考える「教養のある人」とは、他者が思いつかないキラッと光る疑問を持つことができ、その疑問に自分で答えが出せる人です。そして、発想の柔軟さもまた、文芸学部人には必要です。」

## 文芸学部の現在と未来

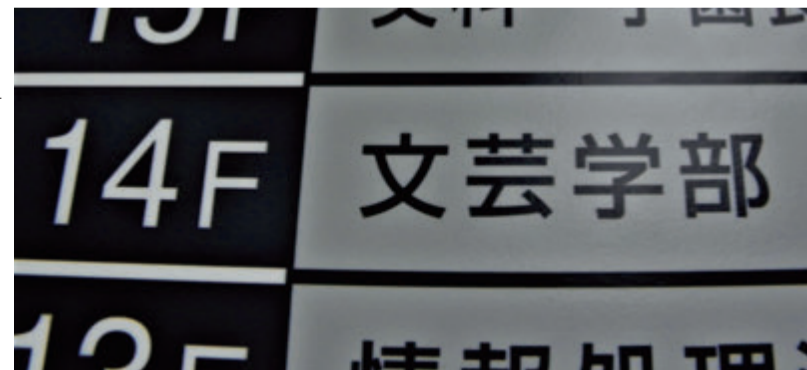
大阪の漫才師は、新世界の寄席に来る、笑いに厳しい観客に育てられるという話を思い出します。

「学生たちも(保証人などの)学部関係者も、この学部報をよく読んで文芸学部の現状を正確に知っていたら、将来の発展のために協力していただきたい。」(遠藤慎吾氏、創刊号、1968年)

## 付記：文芸学部報の役割

「学生たちも(保証人などの)学部関係者も、この学部報をよく読んで文芸学部の現状を正確に知っていたら、将来の発展のために協力していただきたい。」(遠藤慎吾氏、創刊号、1968年)

「文芸学部報は文芸学部のよき伴侶です。」(堀新・教授・文芸教養)



日本初の文芸学部はこちらです(本館1階案内板)

# 共立女子大学文芸学部報

共立女子大学文芸学部報 第139号  
発行日 2021年10月20日  
編集・発行 共立女子大学 文芸学部  
〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋2-2-1  
発行責任者 深津謙一郎  
創刊 1968年12月  
題字 遠藤慎吾  
第二代文芸学部長

学部報に関するご意見・ご感想を以下のメールアドレスまでお寄せください。  
gakubuh@kyoritsu-wu.ac.jp

学部報は共立女子大学公式HPの「文芸学部」のコーナーでもお読みいただけます。



第139号 主目次  
第1面 トップエッセイ 美の旅 大学随想 特集  
第2面 私にとつての文学と芸術  
第3面 卒業生コラム 心象点描  
第4面 各セクションから

〈今号の一言〉  
「興味や関心という光源によって透き通り、自分で感じた面白さを他の人にも伝えられるような力」 (川崎)

## 大学随想

小学生の頃から歴史は好きでしたが、文学と芸術は嫌いでした。読書感想文に指定された名作の主人公はみんなネクラで悩んでばかりで意味がわかりません。音楽と絵画の実技は幼児レベルで止まったままでした。心配した両親に音楽教室や油絵教室に通わされましたが、他の子たちが魔法使いに見えました。

学部と大学院の史学科は、古文書に書いてあることだけが正しいと信じる雰囲気でした。「歴史研究は真実を追究すること」と気取って、文学は作り話、絵画は絵空事と敬遠するようになりまし。今から思えば浅はかでした。転機は数年前にやってきました。ある学会から、歴史・文学・美術史学のコラボ企画を頼まれたのです。最初は嫌々、途中から没頭し、学会当日には新しい世界の扉を開いたような感覚(錯覚)になりました。意気投合してすぐに共同研究を始め、現在は毎月楽しくオンライン研究会です。

思い返すと、小学生の頃はポプラ社の『平家物語』や『太平記』を夢中で読んでいました。軍記物語を読んで「歴史は面白い」と思いついたのが、父親は「それは文学だ」と言っていました。ここで道を間違えてしまったのです。音楽と美術も「実技はダメでも鑑賞は好き」ともっと早く気づくべきだったかな。思い込みの激しい性格がアダになったようです。現在では、あんなに信じていた古文書に見向きもせず、せつせと物語と絵画を調査しています。授業資料も以前は文字ばかりだったのが、ビジュアルになりました。文学や芸術作品も織り交ぜて、少しは文芸学部の教員らしくなりました。オンライン研究会終了後の雑談で、「文学か美術を研究すれば良かった」と打ち明けたところ、「古文書だけが正しい」と一蹴され受ける人には無理」と一蹴されました。「間違った」と思ったのが、実は間違っていました。(堀新・教授・文芸教養)

デッサンから哲学へ

福田 収

保育器も普及していなかった小樽市に半死半生で生まれた私は、中学まで病弱のひと言で過ごしていた。年中ペニシリンの世話になり、耳は内耳炎・中耳炎・外耳炎の三冠王を繰り返し、水疱瘡罹患直後には猩紅熱を発症、幾日も四十度を超す発熱が続いて、ついに髪は抜け落ち、死の淵を彷徨ったりもした。結果、健康的な日常に対する憧憬はすこぶる強く、当然健全なる身体を欲していたからこそ、逆に自分の細胞の

消滅、つまりは死を怖がる子供となっていた。少しばかり精神が熟して心身ともに変態すると、だからこそこの世に生きていた存在証明を欲している単純な自己に気づいた。と同時にあつてなく大学に落ちていた……。といった経緯からして、当時の北海道教育大学教育学部札幌分校特設美術学科(略称「特美」)を志し、格好つけていえば、自らの筆致とともに生きて証を生徒の魂のなかに残すことを存在証明にすべく浪人していた

特集

私にとっての文学と芸術

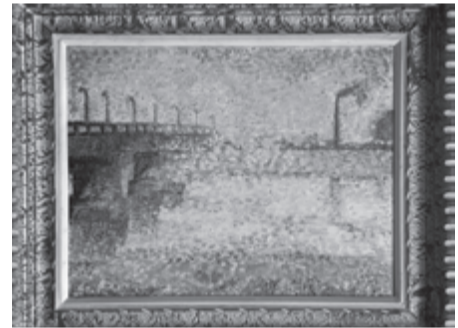
文学部は、文学と芸術(文学以外の)にわたって学ぶところである。もちろん、学生は、そのような学びが期待され、だから卒業時には、「学士(文学部)」という学位も与えられるのである。いっぽう、教員にはそれぞれに専門分野があり、授業ではもっぱらその分野の知識が教授される。しかし、じつは文学部の教員は、いかにも学部にあふさわしく、自らの専門に留まることなく、文学なり芸術なりに広いあるいは深い関心を持っている。「隗より始めよ」ではないものの、今回は、そのごく一端を紹介してもらった。

全集、あるいは私の

文芸クラスタ

杉村 使乃

文学部に転職が決まったとき、「今こそ、アレを引っ張り出すとき」と思った。大学教員一年目、出版社の営業に薦められ、最初のボーナスをつぎこんだ「世界美術大全集」(小学館)である。住宅事情を無視したデカさとオモさ。長年の書籍携行に鍛えられた私でも一回に運べるのは4冊くらい(図書館で試してみても)。しかし、妄想していたページを優雅にめくる時間もあまりなく、気がつけば部屋の片隅で放置プレイ。紙の本さえ売れなくなっているのに、全集なんて、と思うかもしれない。私がコレを買ったときも、既にそのような気配は漂っていた。それでも欲しいと思っただけは、画集というものがそもそも好きだったからである。最初に手にした画集は文学全集か百科事典の付録だった。普通の公立学校でも、図画工作・美術には相応の時間が割かれていて、大好きな科目でもあった。大学は英文科ではあったが美術史は西洋も日本も履修し、



※そんな頃の初油彩画。恥ずかしさと当時の自分の懐かしさと……アンビバレンスの極み。

のである。浪人中、母校の非常勤で北海道でも名の知れた女流画家のアトリエに通い、デッサンに没頭した。大顔面から始まってアグリッパやヴィーナスの石膏像を、パンの耳を食べながら練りゴムにして何度か何度も木炭で追っかけ、並行して入試実技であった静物の透明水彩も描いていた。首尾よく美大生になっていけば共立にはいない。なぜ他者の基準に合わせて描かねばならないのか、なぜ自分と同じ主観が存在していると言えるのか、像の裏側はホントにそのまま石膏なのか、それを未規定のまま描けると師に教わったのだった。私にとっての文

委ねていいものか、いま見えるのは自分が座っている静止点から過ぎないのではないかと等々、つまり、事物は未規定な地平を伴って射映を通じて与えられ、かかる事物の美を形成する本質は人間の意識のなかにこそ現象するとする哲学「現象学」に邂逅したのであった(※)。いや正確にいえば、デッサンや透明水彩画法と並んで、大学でそういうことを勉強してからでも絵は描けると師に教わったのだった。私にとっての文

学芸術とは、芸術を志した結果、哲学の道を歩むこととなった道程そのものに他ならない。

(教授・文芸教養)

文脈との戯れとその実装

北村 弥生

「絵を読み解く」という視点に刺さる。文学同様、芸術作品についても「読み方」があることを知り、目から鱗が落ちた。文学との関連をクローズアップする展示も多く、「これ、使えるかも」と思っただけの画集がこれほど多数ある。

(教授・英語英米文学)

全集の中でも開く回数が多いのは、自分の専門とテーマや時代背景を共有するロマン主義、レアリスム、20世紀末の巻。昨年はハロウィーンの、今年はイースターの文化事象について翻訳する機会を頂いた。特にイースターは、数多くの絵画のテーマになったイエス・キリストの生涯に関する項目が多々あり、文章だけではわからないキリスト教美術の構図やモチーフを、これまで手付かずだった巻を開いて確認するようになった。同じテーマを別の時代ではどのように描いているか、という観点もあり、全集はこれらを比較するための使いやすいリファレンスである。

文学に限らず、あらゆる芸術が美術史は西洋も日本も履修し、

あなたの選択が最善

山本 迪子

強会の会員が長野オリンピックのボランティアに応募する事になり、約二年間の準備期間を経て、私は選手村に配属され、選手の入村手続きを担当しました。その時に驚きました。又、前期後期様々な場所でボランティアをした上田在住の人々と親しくなりました。その友人達を中心に外国人向けの観光ガイドグループが設立され、上田の歴史や史跡を英訳した



松江の町で見つけた、小泉八雲の後姿の銅版画。

母親業が身に掛りました。お考えを心に置いて生徒に接しようとお考えを心に掛けてました。

「私のハズバンドが」と滋比古先生の事をお話しになりました。卒業間近な折に先生がおっしゃった「将来、様々な選択をせまられるでしょう。その時々選んだ道が最善と信じて生きていきなさい。」という言葉が私の人生の指針となりました。二十数年前、小さな英語勉強会を予定しています。

「はい」という意味でしか使われていないのなら話は簡単だがそんなことはないから。「はい」がYesという意味でしか使われていないのなら話は簡単だがそんなことはないから。「はい」がYesという意味でしか使われていないのなら話は簡単だがそんなことはないから。

意とするところだ。しかし、「はい」を抽出して何回使われたかだけわかったとしても、私たちはそこに何の意味も見いだせない。「はい」がYesという意味でしか使われていないのなら話は簡単だがそんなことはないから。「はい」がYesという意味でしか使われていないのなら話は簡単だがそんなことはないから。

(教授・文芸メディア)

# 文学の中の音楽

岡田 ひろみ

紫式部は現代の我々を『源氏物語』の読者として想定したのでしょうか。もしかすると百年後の人々のことくらいは考えていたかもしませんが、千年後まではまあ考えませんよね。

今、私は千年以上も昔に書かれた作品である『枕草子』や『源氏物語』を面白いと思って読み、その表現や方法を研究していま

## さあ、歌いましょう！

池上 公平

ルネサンスに印刷本が登場する以前、書物は手書きの写本であった。豪華な装飾を施した写本は美術史の重要な研究分野であるが、その中には教会や修道院で歌われる聖歌の楽譜も含まれる。このような楽譜は欧米の各地に現存するが、日本にもあり、そのうちの1点が専修大学図書館に所蔵されている。

10年ほど前、その専修大学の公開講座で講演をする機会があった

が、私は実は前座であり、当日の主役は名高い中世音楽史研究家・皆川達夫氏であった。皆川氏は専大図書館が所蔵する15世紀のグレゴリオ聖歌の写本について講演するために招かれたのだ。私自身、楽器はできないが音楽は好きで、中世やルネサンスの音楽も聞くことがある。

それに目(耳?)を開かれたのは、学生時代に受講した今谷和徳先生の授業のおかげである。今谷

ダンスを見たことはありませんか? 「ない」と言う方はいないでしょう。では、ダンス作品を鑑賞したことはありませんか? 今度は「ある」という答えはだいぶ減るのではないのでしょうか。

ダンスは、私たちの生活に入り込んでいます。古くから人々は神事や共同体の絆を強める目的で踊り、やがてヨーロッパの宮廷文化の発達に伴いダンスは政治的な機能を帯びました。踊り手の知性と優美さを証明するゆえ、ダンスは王侯貴族に必須の教養になり、音楽や詩を融合した舞踊作品が祝

## ダンス史、ダンス詩?

岡見 さえ

は約300の舞踊学校があったと言います。その後ダンスはルイ14世の命令で芸術として整備され、実践と鑑賞の二系統に分かれて発展しました。この後者が、現代のダンス公演に繋がっています。一見非常に異なりますが、コンテンポラリーダンスも後者、バレエの末裔です。20世紀になると、身体に不自

由を強いてまで美の理想に従うバレーに對し、反旗を翻す振付家たちが現れました。既存の美学を更新すべく、振付家たちは独自の方法論で創作を行い、モダン、ポスト



## 追悼・大島利治先生

田口 亜紀

大島利治先生の足跡をたどることは、仏文コース史を繙くことにもなる。昭和三八(一九六三)年、河盛好蔵先生(一九〇二-)の三九年前、運営を担ってこられたからである。

学園理事としても、作家・評論家としてもご多忙の河盛先生に代わって、一九六九年から主任を務め、実質的に仏文コースの中心者だからこそ、できる限り歩み寄りつつ読みたいと思います。

(教授・日本語日本文学)

先生は最近まで共立でも音楽の授業を担当されていた。その先生が師事したのが皆川達夫氏である。講演では、専大図書館所蔵の楽譜のコープが配られ、グレゴリオ聖歌について簡単な説明の後、楽譜の読み方が説明された。

グレゴリオ聖歌は中世のヨーロッパで歌われた単旋律の宗教曲で、今日でもカトリックのミサや聖務日課で歌われることがある。本来、その楽譜は四線のネウマ譜と呼ばれるもので、一般的な五線譜とは記譜法も読み方も異なり、私のような素人には理解がむずかしい。専大図書館の楽譜もネウマ譜である。

この後者が、現代のダンス公演に繋がっています。一見非常に異なりますが、コンテンポラリーダンスも後者、バレエの末裔です。20世紀になると、身体に不自

由を強いてまで美の理想に従うバレーに對し、反旗を翻す振付家たちが現れました。既存の美学を更新すべく、振付家たちは独自の方法論で創作を行い、モダン、ポスト

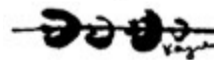
多様性にあります。「ダンスII音に合わせた動き」と考えがちですが、音楽もクラシックからノイズ、無音まで多彩です。ダンサーが喋

ることも、ダンスなのに踊らないことすらあります。直接に物語や感情を表現するよりむしろ、振付家はテーマに基づいて身体、ムーヴメント、音、光、美術を空間に周到に配置し、それを観客は自由に解釈できるのです。

歩行を散文に、舞踊を詩に例えたのはフランスの詩人ポール・ヴァレリーですが、作品の謎を解きほぐす楽しさを言い得て妙だと思えます。

芸術の秋、今年はダンス作品を観てみませんか?  
(准教授・フランス語フランス文学)

### 心象点描



### 記憶の痕跡

上野 慎也

二〇〇〇の構想の下に創設された仏文コースで、大島先生は当初から二〇〇二年にご退職になるまでの三九年前、運営を担ってこられたからである。

学園理事としても、作家・評論家としてもご多忙の河盛先生に代わって、一九六九年から主任を務め、実質的に仏文コースの中心者だからこそ、できる限り歩み寄りつつ読みたいと思います。

(教授・日本語日本文学)

化研究所神田分室長、そして、共立女子学園図書館長を歴任し、学園の運営にも奇与された。

ラシーヌ、モリエール等のフランス古典主義文学を軸に、広い視野で仏文学の研究に携わった。仏和辞典の編纂、そして同僚の河盛先生と、ロングセラーになる仏文学史の本を編み、河盛先生編の筑摩書房刊『世界人生論全集』に協力した。すなわち数多くの翻訳によっても日本における仏語・仏文学の発展に多大な貢献をなされたことになる。

同僚だった武藤剛史先生は大島先生を、「細やかな注意力」の持ち主、温厚で、「歴代の助手さんの誰しもが、そのような先生

昔取った杵柄——は疾うの昔に故山の廃屋で朽ちてしまっただろうが、身体が憶えているとはよく言ったものである。水泳、自転車、逆上がり。年寄りの冷や水も、肉体に刻印された過去がなければ始まらない。

目に見える形で肉体に刻印されていても、常に機能するとは限らない。襦袢の頃に手術で先端を切断した左の人差し指を何かの弾みでしげしげと見つめ、不思議の念に襲われる。なんでこんな指なんだっけ。治療した医師の名前も憶えているのに、目の前の指の形と結びつかない。見慣れ、見飽きた指なのに。えい、こんなところにピンクの蚯蚓腫れ? 令和三年七月八日木曜午前二時四四分、outもそろそろ店じまい、遅い湯浴みの浴槽ではたと気が

つく右膝頭の恐らく縫合痕。この日この時この瞬間まで見た記憶もなく、見ても何だか判らない。刻印ならぬ封印なのかも知れない。丑三時の手鏡ならぬ膝鏡である。御迎え間近の人は自分の掌を凝視するそうだが、幸か不幸かその後健康を振り回してこのように駄弁を垂れ流している。来迎は

ている。円錐の頂の直ぐ下には物見の窓があり、子供の私は右に立つ白髻豊かな老人と二人、遠い夕陽が低い空に放つ光芒の照らし出す青い麦畑、うねる丘陵を眺めている。心地よい軽風を頬に受け、外つ国の言葉で翁に何事かを話しかけている。声は聞こえない。二人を私が眺めている。見るからに昔の異國、恐らくは歐洲のいずこか。文脈も何も無い。ただこの情景だけを鮮明に記憶している(つもり)。

この塔がどこにあるのか知らない。あるのかも判らない。それらしい塔に上ったこともない。二十代末にイングリッドへ引越すまで、抑も泰西に暮らしたこともなければ、出かけたすらなかった。タイムマシンに乗ったことも(いまのところ、まだ)ない(はずだ)。どこにも痕跡のなさそうな記憶が脳の浅い皺に深々と刻み込まれている。皺が寄る前の記憶だとすれば、皺がなくなった晩にも残る記憶なのではないか——右膝頭に偽装記憶のチップを仕込まれたのかも知れないけれど。挿画も筆者。(教授・文芸教養)

# 研究室から

## 日本語日本文学

皆さんは「透明」という言葉にどんなイメージを持っているでしょうか。宮沢賢治は自身の作品の中で何度も「すきとほつた」空気や風を描き出し、更には「種山ヶ原」下書稿(一)で、「あゝ、何もかももうみんな透明だ」、「じつにわたくしは水や風やそれらの核の一部分でそれをわたくしが感ずることは水や光や風せんたいがわたくしなのだ」のように、その透明な自然と同化するような心象を綴っています。

## 英語英米文学

また村上龍の『限りなく透明に近いブルー』では、ラストシーンで主人公のリユウが夜明けの空気に染まる透明なガラス片を見ながら、このガラスのように自分が自分に映るものを他の人々にも見せたいと考えます。

この二人の作風は全く異なっていますが、どちらも透明な情景を描き、また自身を透過させることで、同じものを読者にも見せよ学校勤めのせい、夏休みに関係しては、比較的恵まれているほうだ。一昨年末までは、どんなに仕事を立て込んでいても、最低二、三日はねん出してあちこち旅行に出かけていた。

事前のプランニングもまた楽しい。費用は一日いくら以内とか、同じルートは二度通らないとか、そんな縛りを勝手にかけて、あれやこれやとプランを練る。試行錯誤の末、それなりのプランが完成すると、旅行の八割方が終わった気分になる。

とはいえ、旅行の醍醐味はプランニングにあるかと言えば、そうではない。強引な喩えかも知れないが、旅行と授業はよく似ている。

うとしています。

学生の皆さんは演習やゼミで発表を行う機会があると思います。ぜひ興味や関心という光源によって透き通り、自分で感じた面白さを他の人にも伝えられるような力を培ってください。(助手・川崎)

九月に英語オンラインレッスンを開催しました。本来であれば、福島県にある語学教育機関への研究旅行を予定していましたが、今年度は新型コロナウイルスの影響を受けて、学内での日帰りオンラインレッスンに変更となりました。

当日のレッスンでは、大学のパソコンを一人一台使用して、語学教育機関プリティッシュヒルズのオンラインレッスンを三つ受講した後、英文教員によるオリジナルセッション一つを行いました。

その中で特に興味深かったのが、オリジナルのイギリス旅行プランを立てたレッスン(「The UK」)です。イギリスの重要な歴史や事実を学びながら、プラン通りに進むこと自体、決して悪い気はしないのだが、あとで振り返って心に残っているのは、プラン通りに終らなかったケースである。

平日ダイヤと休日ダイヤを見間違えて……(単純ミス)、たまに食堂で隣り合わせたオジサンに誘われて……など、原因は様々である。そのことで、予定した滞在地をカットせざるを得なくなった。予想外の出費を強いられたり、

## 学部長から

旅は風まかせ、という言葉もよく聞かれます。行き当たりばったりでは、いい加減には収まらないようだ。

旅は風まかせ、という言葉もよく聞かれます。行き当たりばったりでは、いい加減には収まらないようだ。

イギリスが起源の有名な食べ物や施設などを学び、参加者の皆さんはイギリスをより身近に感じられるよい機会になったのではないのでしょうか。

今後も、様々なイベントを開催していく予定です。お見逃しのないようお願いいたします。(助手・御子貝)

フランス革命をテーマにした様々なイベントが行われました。七月には革命記念日を祝うパーティー「パリ祭」が実施され、フランス語を学ぶ学生に加え、フランス語圏出身の留学生や、教員が集まりました。

現代のフランスでの記念日の祝われ方や、パリで活躍した写真家が記録した写真や、映画のワンシーンなど、様々なテーマからパリ祭が紹介され、フランス文化について知識を深める機会となりました。

さらに同月に、フランスオンラインツアーも実施されました。現地ガイドの案内によりフランス革命の史跡を辿りながら、首都パリの美しい街並みや歴史的建造

さういふことも確かにあったが、ハブニングに身を任せたことで、思い出に残る余得にもずいぶんあざかった。その「味」が忘れられないから、また旅行に出かけたいと思うのだから。

教訓めいたオチを付けるなら、その種の余得にあずかるためには、相応の準備はやはり必要だ。ある程度の準備があるからこそ、余裕をもってハブニングを楽しめる。

旅は風まかせ、という言葉もよく聞かれます。行き当たりばったりでは、いい加減には収まらないようだ。

旅は風まかせ、という言葉もよく聞かれます。行き当たりばったりでは、いい加減には収まらないようだ。

旅は風まかせ、という言葉もよく聞かれます。行き当たりばったりでは、いい加減には収まらないようだ。

物、パティスリー等をライブ配信で見学しました。

このツアーは一〇月と十一月にも実施され、第二回は同じく「革命」をテーマに地方都市のリヨンとトゥールーズを見学し、第三回は「プリミティブアート」から見る芸術文化保有の歴史をテーマに、リヨン近郊オートリヴのシュヴァルの理想宮を見学しました。

どの回も実際にフランスを訪れたかのように文化や風土に触れて学ぶことができ、貴重な体験となりました。

さて私事ですが、九月末日をもって本学を退職することになりました。学生のみさんに囲まれて、実りある助手生活を過ごすことができました。すべてに心より感謝申し上げます。なお、一〇月からは齊藤真規子さんが後任となります。(井野 元)

初めまして。新任助手の平野真実です。今年の春に大学を卒業して、多摩ニュータウンにある実家から毎日共立に通っています。七月現在、半期がそろそろ終わりで、大学院で勉強を続けたいと考えている学部生に朗報があります。

なんと、大学院の入学金が免除になるのです。この機会を利用しない手はありません。

文芸学研究科には、日本文学、英文学、演劇学、文芸学の四つの領域があります。最後の文芸学領域は、学部の仏文、造形芸術、文芸教養と文芸メディアが合同で運営しているため、ここでは横断的に学ぶことができます。

も文芸学研究科自体、四つの領域をまたいで、自由に授業を受けられます。少人数クラスが特徴です。これに加えて、大学院の魅力は、好きなことをとことんまでつぎつぎと学べる環境と、それに対する

好きなことをとことんまでつぎつぎと学べる環境と、それに対する

好きなことをとことんまでつぎつぎと学べる環境と、それに対する

だんだんと助手の仕事にも慣れてきたところです。

夏、例年私は祖父のいる佐渡島に行きます。そこでは山の梨畑へ行ったり、海で釣りをしたりして楽しく過ごすのですが、ここ数年は自粛です。皆さんはお休み中いかがお過ごしでしたか?

さて、夏が過ぎるとだんだんと空気が澄んで、遠くの富士山がよく見えるようになります。本館14階1421室にある私のデスクはベストポジションで、富士山がちょうどきれいに見えます。ラッキーでした。

皆さんも助手室にお立ち寄りの際には窓の外を覗いてみて下さい。富士山見物は晴れた朝がおすすめです。助手はいつでも皆さんをお待ちしています。(助手・平野)

本コースでは、卒業論文・卒業制作に資することを目的として、三年生を主な対象にゼミ研究旅行を行っている。

今年度は「四領域制」が取られるようになり、「文芸教養」が在す知らなかったという人もけっこう多いのです。また、大学院に行く就職活動で不利になるという話はありません。それは卒業が大学が大学院かという問題ではなく、個人の問題です。大学院修了後に就職を希望した先輩たちは就職しています。

興味を持ったなら、迷ったら、ゼミの先生、担任、コースの助手に相談してみましょう。学力試験なしで大学院進学が決まる、学内推薦もあります。三年生以下は、来年度以降、募集や大学院説明会のお知らせに気をつけてください。気楽な気持ちで説明会に足を運んでください。

気楽な気持ちで説明会に足を運んでください。

気楽な気持ちで説明会に足を運んでください。

気楽な気持ちで説明会に足を運んでください。

史、絵画、彫刻の四つのゼミ揃って軽井沢に行こう、去年はコロナ禍のため何処にも行けなかった四年生も誘おう、いや二年生も、なると夢は膨らみ、夏休みの終わる頃にと計画していたが、叶わない夢となった。緊急事態宣言が解除されたり発令されたり、感染抑制の見通しが立たなかったからだ。

絵画など実技系の学生からは、瀬戸内の美術館巡りと風景写生で二泊三日の案も出ていたので、シヨックは大きい。

それでも、年明けの冬休みの終わりにくらくらには、ワクチン接種も進み、実現の可能性はあるのではないかと、伊豆・箱根あたりの美術館を貸し切りバスで巡る一泊二日の研究旅行を計画している。

執筆現在の東京の患者発生状況は三五八一人。東京の新規感染者数はピークアウトしつつあるという声もあるが、さてどうなっているだろうか。(教授・須田)

二〇二一年度の新一年生から、文芸学部では「四領域制」が取られるようになり、「文芸教養」が在す知らなかったという人もけっこう多いのです。また、大学院に行く就職活動で不利になるという話はありません。それは卒業が大学が大学院かという問題ではなく、個人の問題です。大学院修了後に就職を希望した先輩たちは就職しています。

興味を持ったなら、迷ったら、ゼミの先生、担任、コースの助手に相談してみましょう。学力試験なしで大学院進学が決まる、学内推薦もあります。三年生以下は、来年度以降、募集や大学院説明会のお知らせに気をつけてください。気楽な気持ちで説明会に足を運んでください。

気楽な気持ちで説明会に足を運んでください。

気楽な気持ちで説明会に足を運んでください。

気楽な気持ちで説明会に足を運んでください。

気楽な気持ちで説明会に足を運んでください。

「ス」は「文化領域」となりました。昨年のことだったと思います。文芸学部長があるとき、「文化領域は文芸学部の縮図のような存在」という主旨のことをおっしゃっていました。

本学文芸学部は、(新体制でいう)言語学領域、芸術領域、メディア領域、文化領域という四つの領域があって、人間社会の営みや、その結実のひとつとしての芸術について、さまざまなやり方で学ぶところだと言います。その中でも実践しようとする領域、という意味での「縮図」かと思えます。

たとえば、ある小説、またはある絵画を、作家や画家の「自己」を表現したもの捉えることができず、時代の「資料」として読み解くこともできます。そこに、社会や集団の「価値観」の表れを見出すこともできます。

ひとつの宝石の輝きを、いつもさまざまな切り面から見つめてみる——この学部で過ごす時間なかで、そのような姿勢を身につけてほしいと願っています。(准教授・福嶋)

二〇二一年度の新一年生から、文芸学部では「四領域制」が取られるようになり、「文芸教養」が在す知らなかったという人もけっこう多いのです。また、大学院に行く就職活動で不利になるという話はありません。それは卒業が大学が大学院かという問題ではなく、個人の問題です。大学院修了後に就職を希望した先輩たちは就職しています。

興味を持ったなら、迷ったら、ゼミの先生、担任、コースの助手に相談してみましょう。学力試験なしで大学院進学が決まる、学内推薦もあります。三年生以下は、来年度以降、募集や大学院説明会のお知らせに気をつけてください。気楽な気持ちで説明会に足を運んでください。

気楽な気持ちで説明会に足を運んでください。

気楽な気持ちで説明会に足を運んでください。

気楽な気持ちで説明会に足を運んでください。

気楽な気持ちで説明会に足を運んでください。

皆さん初めまして。今年度より文芸メディア領域・メディア専修の助手に就任した、碓塚 朋かきつか(とも)と申します。

私は昨年、共立女子大学を卒業しました。大学では司書の資格を取得し、卒業後は司書資格の過程で興味を持った児童書について執筆しました。またイラストを描くことが得意です。どうぞよろしくお願いたします。

学生として四年間通っていた場所も、助手という新しい立場になると、大学の見え方が、少し変わったような気がします。

昨年今度もコロナの影響で授業の実施方法が変化し、想像していた大学生活を送れていない学生が多いかと思えます。もし学校生活で、何か不安なことや相談したいことなどあればいつでも研究室に来てください!

大学生は学生の中で一番時間を自由に使える時だと思えます。今しか学べない、できない、やってみたいということをぜひ見つけてみてください。そして無理のない範囲でさまざまなことに挑戦し、悔いのない大学生生活を送ってください。(助手・碓塚)

今号には、大島先生の訃報が掲載された。先生は、平成一四年度にご退職から、もう二十年近く経つ。訃報に接したことがある者としては感慨深い。緑もゆかりもなければ、そして、学部だけのことで終わってしまった。はたしてそれでよいものか。

第一面の中本先生の文章には、過去の学部報の記事がいくつも引用されている。聞けば、暇な折に読み返している。そうなの。紙の記録である学部報は、そういう振り返りをしやすくしてくれる。興味さえあれば。

興味さえあれば。

興味さえあれば。

興味さえあれば。

## 編集後記

学生は普通四年しか在籍しないから、その間に接した、ごくわずかな教員しか知りえない。その記憶も卒業して年月が経てば自然と薄れていってしまう。共立でも数年前からホームカミングデイというイベントが始めたが、校舎も変わり、見知った先生もいなければ、なつかしの母校に戻ったという気持ちはなれないだろう。

教員のほうも、この十年くらいで、大幅に入れ替わった。かつての八王子キャンパスを知るのはほんの少数であり、「高尾返し」とか「薫像前」とかいう学生言葉もはや死語である。

死語である。

死語である。